



# 地域防災に女性も参加を

山形市は、他の地域と比べて災害が少ないといわれていますが、地震以外にも、蔵王山の火山活動や局地的大雨など、さまざまな災害などが考えられます。東日本大震災などの経験を踏まえて、これまで以上に地域活動への参加意識を高めるとともに、防災や減災、復興に関する意思決定の過程への女性の参画を拡大していくことが必要です。

防災における男女共同参画の重要性や、私たちがすべきことなどを、山形市防災対策課に伺いました。

## 男女共同の視点は、なぜ必要なのでしょう？

地域のつながりの希薄化が指摘され、少子高齢化などの社会情勢の変化が著しい現代においては、男女がともに協力し合い、多様化・複雑化する地域の課題に対応していくことが求められます。

また、東日本大震災を契機に、自治会等のコミュニティ活動の重要性が改めて認識されています。

東日本大震災の際には、救援物資や避難所運営等で、男女共同参画の視点が不十分であることから、女性や子育てのニーズに配慮した対応ができないなど、多くの問題が起こっており、防災や減災、復興に関する意思決定の段階から、女性の参画が必要であることがわかりました。

下表は、東日本大震災時の震災直後から避難所での生活について困ったことをまとめたものですが、「トイレの数が少ない」「プライバシーが確保されていない」といった項目で、男女の差が顕著です。これは、**避難所運営に、女性の視点が不足していた表れ**といえるでしょう。

平成25年には、内閣府から「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が提示され、女性用更衣室や男

女別トイレ、授乳スペースなど、プライバシーを確保できる仕切りの工夫や、女性や子供に対する暴力等の防止のための取り組みが、避難生活の安全・安心のために重要であることが示されました。

こうしたことから、山形市でも「地域防災計画」において、避難所の設置・運営に女性の視点を取り入れることとしています。

また、地区の防災訓練や出前講座などに赴いて、女性の参画の重要性を説明し、防災の取り組みへの女性参画の促進を図っています。

## 女性を対象とした地域防災研修会を実施しています

山形市では、平成25年度から、地域における自主防災組織のリーダー育成研修を実施していますが、参加者は、ほとんどが男性でした。

平成27年度からは、地域防災力の向上を目指し、地域防災活動における男女共同参画を推進するために、「女性

を対象とした地域防災研修会」を実施しています。

平成27年度は、避難所運営訓練、平成28年度は、防災教材「フロスロード」を使った研修を行いました。「妊婦さんには何が必要か」「洗濯物を干す場所はどういう所がよいか？」といった女性ならではの発想から、参加者同士がさまざまな意見や価値観を共有し、災害対応を自らの問題として考えるこ



平成29年2月に開催された女性を対象とした地域防災研修会の様子

とができました。

参加者からは、「避難所での女性目線の重要性を知った」「避難所運営には避難者が主体となり行動することが必須」「地域の取り組みの大切さがあった」「男女共に」の視点が必要」といった感想があり、地域防災への女性参加の必要性を考えるきっかけとなっています。

## 私たちができること、すべきことは何でしょうか？

地域や家庭における防災力向上には、平時からの準備が大切です。地域の自主防災組織に参加する、各自必要な

ものを備蓄するなど、私たちができること、しておくべきことはいろいろあります。

備蓄に関しては、女性の場合、生理用品など女性特有のものが重要です。乳幼児がいるのであれば、粉ミルクや離乳食、紙おむつも必要になるなど、必要なものは、それぞれの家庭によって異なります。

消防庁などで作成している備蓄品のリストも、インターネットなどで手に入りますので、自分の家庭に合ったリストを作っておくといでしょう。

また、日中災害が起きた場合、仕事や学校などで、家族が離れていることもあると思われます。避難所の場所をご存知ですか？ いざというときの連絡先や、家族の集合場所なども確認しておくなど、普段から、**家庭の中で防災について話し合っておく**ことが大切です。

## 取材を終えて

女性を対象とした地域防災研修会を実施していることを初めて知りました。この研修会をとおして、防災や減災、復興における男女共同参画が進み、地域と家庭内の防災力が高まることが期待されます。私も、家庭で話し合いをしたいと思います。

(編集協力員 杉山 宏行)

## 多様性を認め合う社会をめざして

# LGBTってなに？

その人自身の「性のありかた」を「セクシュアリティ」といいます。[LGBT]という言葉は、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を並べた「セクシュアルマイノリティ（性的少数者）」の総称として使われています。

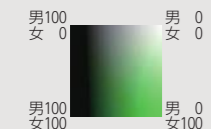
友人や家族に相談できないことによる孤立感や将来への不安、男女別の服装やトイレなどの環境によるストレスや生きづらさがあるといわれています。

## 一人ひとりのセクシュアリティは多様

一般的に「性別」と聞くと、生物学的な身体の性をイメージする方が多いかもしれません。

しかし、セクシュアリティは、「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現する性」の4つの要素の組み合わせからできていると考えられています。各要素それぞれの度合いと組み合わせにより、人の数だけセクシュアリティはあるといえます（イメージ下図）。

「男らしさ」や「女らしさ」といった枠にあてはめず、その人のありのままを理解しあうことが必要です。



※組み合わせは人の数だけあります。

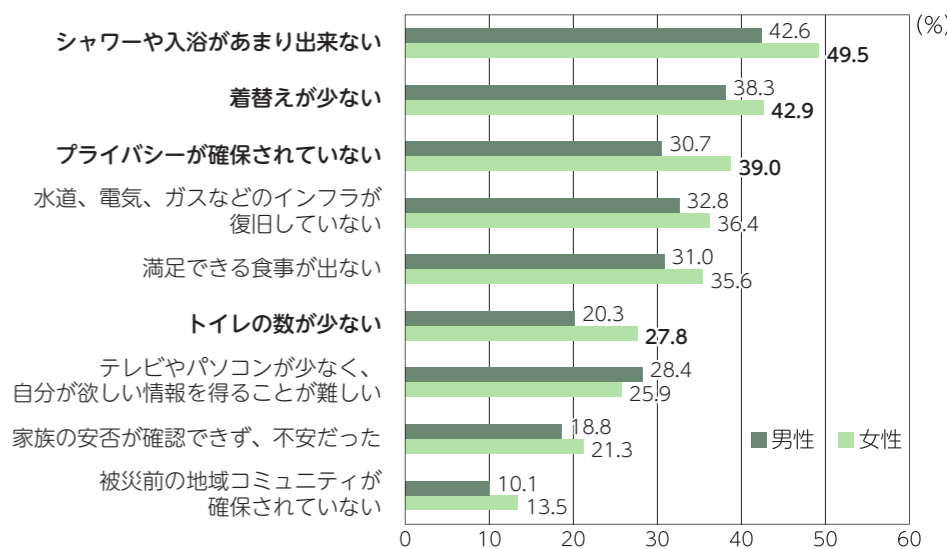
最近、新聞、テレビ等で「LGBT」という言葉を見聞きする機会が増えました。「LGBT」ってなんでしょう？ だれもが自分らしく生きられるように、「LGBT」について学んでいきましょう。

- L レズビアン (Lesbian)** 女性を好きになる女性、女性同性愛者
- G ゲイ (Gay)** 男性を好きになる男性、男性同性愛者
- B バイセクシュアル (Bisexual)** 性別に関係なく人を愛する人、両性愛者
- T トランスジェンダー (Transgender)** 生まれた時に判断された性別と違う性別を生きる人

- この他にも、
- I (Intersex インターセックス)** 身体的に男女の区別が付きにくい人
  - A (Asexual アセクシュアル)** 同性も異性も好きにならない人
  - Q (Questioning クエスチョニング)** 自分の性別や性的指向に確信が持てない人
- などさまざまな「性のありかた」が存在します。

※博報堂DYグループのLGBT総合研究所の2016年の調査では、約8%が性的少数者であると回答しており、決して特別な存在ではないことがわかります。

【震災直後からの避難所での生活について困っていること】(男女別・複数回答) (上位項目抜粋)



資料：内閣府・消防庁・気象庁共同調査「津波避難等に関する調査」(平成23年)を基に、内閣府男女共同参画局による男女別集計 (出典)「平成24年版 男女共同参画白書」より